

創立130年記念事業・社会知性開発研究センター公開シンポジウム「ベルンシュタイン文庫が語るフランス革命」

フランス革命像を再検討—本学所蔵「M・ベルンシュタイン文庫」から

本学が誇るコレクション「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」史料からフランス革命を考える公開シンポジウムと特別展が、創立130年記念事業の一環として東京・新宿の紀伊國屋書店で開催された。

公開シンポジウムは「ベルンシュタイン文庫が語るフランス革命—フランス革命下の民衆と自由・平等—」(社会知性開発研究センター主催)と題して10月25日、紀伊國屋書店南館サザンシアターで開催された。同史料をひもとき、民衆の行動や同革命の理念である「自由、平等」の視点からフランス革命像を再検討しようと、3人の専門家が講演した。

日高義博学長のあいさつのあと山崎耕一・一橋大学社会科学古典資料センター教授が「フランス革命期の知識人」のテーマで講演。フランス東部のブル市長を務めたジャン＝フェリック・シュヴリエ氏と同氏夫人が書いた手紙を検証し、同革命期の男女の教育格差を浮き彫りにした。

小井高志・立教大学文学部教授の講演は「リヨンのフランス革命—自由・平等をめぐる」。フランス第二の都市リヨンから同革命を考察。恐怖政治(テール)での犠牲者リストを他地区と比較しながら分析。そこから相反する「自由」と「平等」の両立の可能性を探った。

近江吉明・本学文学部教授(歴史学研究センター代表)は「バス・ノルマンディーにおける1789年の食糧蜂起」について講演。北部オルヌ県で起きた農民蜂起を例に、穀物の不足や価格上昇の深刻化により全国の中小都市で勃発した権力に対する農民の抗議行動活動を、当時の報告書、手紙、日記などで丹念に追った。引き続き行われたシンポジウムは、遅塚忠躬・お茶の水女子大名誉教授が進行役を務めて展開され、400人の参加者で埋まった会場からも活発な意見が出された。

特別展「フランス革命下の民衆と自由・平等」は、同店新宿本店の紀伊國屋画廊で10月25日から30日まで開催された(本学図書館主催)。「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」から代表的な52点が公開され、期間中700人が訪れ好評だった。

25日には、オープニングセレモニーが行われ、三島英雄学校法人専修大学副理事長、大庭健図書館長、紀伊國屋書店の乙津宜男代表取締役社長(昭39経済)らがテープカットを行った。

※「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」本学が1977年



日高義博学長



▲左から遅塚、山崎、小井、近江の各氏



▲史料も興味深く…



▲特別展でテープカット

に創立100周年を記念して購入したコレクション。フランスの有名な書誌学者、古書籍商のミシェル・ベルンシュタインが40数年の歳月をかけて収集したフランス革命関連史料。本学が所蔵する史料点数は4万数千点で、フランス国立図書館に次ぐ規模。

副理事長に三島英雄理事

10月24日開催の学校法人専修大学理事会において、三島英雄常勤理事＝写真＝が副理事長に選任された。なお、副理事長の選任は法人強化を主眼としたもので、任期は平成19年10月24日から平成21年11月2日までとなる。

【略歴】 本学経済学部経済学科卒業。秘書室長、管理部長、総務部長などを歴任。97年（平9）理事。00年（平12）常務理事。03年（平15）専務理事。07年（平19）学校法人北上学園理事長。鹿児島県出身。65歳。



本学ホームページをリニューアル デザイン一新、より見やすく

10月1日から専修大学ホームページをリニューアルしました。デザインを一新し、従来よりすっきりとした、シンプルで見やすいページになりました。主要なページの画面構成はCMSというシステムを使用しスクールカラーの緑を基調とした統一感のある画面です。画面幅は今後の主流を意識し従来よりも約3割ワイドになり、豊富な情報を一つの画面で見やすく表示するように工夫しました。トップページでは専修大学のイメージを伝える画像をスライド的に表示しています。メニュー構成も訪問者別の構成を中心に変更しました。

(広報課)



▲画面上で文字サイズが変更できる

2007多摩区3大学コンサート

マンドリンクラブが好演

「2007多摩区3大学コンサート」が10月9日、川崎市の多摩市民館ホールで開催され、多数の音楽ファンが訪れた。

このコンサートは、地域との連携に積極的に取り組む活動の一環として、川崎市多摩区にキャンパスを持つ3大学(専修・明治・日本女子)のさまざまなジャンルの音楽サークルが出演。昨年の2月、9月に続き3回目の開催となる。本学からはマンドリンクラブが出演し、「人生のメリーゴーランド～ハウルの動く城より～」をはじめとした全5曲を演奏。マンドリンの美しい音色で地域の皆さんを魅了した。コンサートは、引き続き明治大学ニューウェーブジャズオーケストラ、日本女子大学合唱団の順に演奏を披露。大学の文化的な懐の深さを印象付ける、多彩なジャンルの音楽を披露し、大学と地域の交流をさらに深めることができた。



三曲研究会定期演奏会

「古典」から「ジャズ風」まで披露

三曲研究会(飯塚慎太郎代表・経済3、会員59人)の第39回定期演奏会が10月8日、川崎市の麻生文化センターで開催された。箏(そう)、三味線、尺八が織り成す合奏11曲が披露され、400人の聴衆を楽しませた。

「玉兔」を皮切りに、「八千代獅子」、合奏曲「迦樓羅」、「呼応」、「竹の群像」、4年次生の集大成「ディヴェルティメント」、ドビュッシーの曲からヒントを得た

「子供のためのラプソディー」、作曲者の沢井比河流氏から直接、演奏の指導を受けた「真美夜」、大合奏「蒼き狼の夢」=写真。

演奏曲目は古典からジャズ風現代曲までバラエティーに富み、繊細でいきいきとした音色が会場いっぱいに響き渡った。

